

命の大切さについて

高橋 香緒里

みなさんは生まれてきた時の体重をおぼえて

いますか？ 300g？ 400g？ 500g？ 大きい

人で500gという人もいます。

私の場合は、520gで生まれました。

520gとは500gのアップトポトル一本分

ぐらいの重さです。母の体の調子が悪くな

て早く生まれました。

その時、父は病院の先生から母と私の命の

選択を求められていました。父は「どちらも

大切な命なので全力で申って下さい」と病院

の先生にお願いしたそうです。

帝王切開の緊急手術が行なわれ、私は、超未

熟児という形で生まれました。520gとい

う体重は当時、二番目に小さい赤ちゃんだっ

たそうです。ちなみに、一番小さかった赤ち

やんの体重は490gと聞きました。

私は、体の水分が蒸発するのを防ぐため、

5

10

15

色んな機械をつけられて保育器に入れられま
 した。そして、何度も危険を知らせる警報器
 が鳴ったそうです。
 ノooooooooなるまでが一回目の山場だと
 言われ、一回2ccのミルクを管で少しずつ
 時間をかけて飲ませられました。普通の赤ちゃん
 なら100ccを簡単に飲めるのに、私は2ccを飲
 むのがやっとだったそうです。
 少しずつですが、ミルクの量が増え、体重も
 増え、三ヶ月過ぎた頃、1500g位になり
 ました。その頃になつてから、やっと生きる
 可能性が見えてきたそうです。人工呼吸器が
 外され、自分の力で呼吸できるようになり、
 自由に動けるようになりました。ミルクもほ
 乳ビンで飲めるようになりました。
 そんな姿を見た看護師さんからの一言。
 「元気な子供に育ちそうですね。そう言われ
 る程、私はバツトの上で動き回るようになり、
 管を勝手に外したりして看護師さんを困らせ
 る位おいたずらっ子になつていたそうです。」

生まれてから5ヶ月がたち、
 赤ちゃんと生まれた位の体重になっ
 て退院する事ができました。その時
 に、病院の先生から言われたのは、
 「未熟児網膜症」という病
 気と大人になるまで戦っていくこ
 と。また、普通の子供の体格にな
 るまでには、小学校一年生ぐら
 いまでかかるという事。でも私
 は幼稚園に入園する前に、もう標
 準以上の体格になっ
 ています。これには病院の先生も
 看護士さんも両親も驚いたそう
 ですが、私の生命力の強さに感
 動したそうです。その頃、私は母
 を悲しませることを言ったこと
 があります。私の周りに居る友
 達には兄弟の居る人が多く、一
 人っ子はあまり居ません。泣いて
 う。たえませんでした。母は私を
 産むのが精一杯で、それ以上産
 むと母の命が危なくなる。後で
 教えられました。一人っ子で居
 るさみしさよりも、母を失う悲
 しさの方がつらいので、私は二
 度とその言葉を言わない事

5

10

15

に決めました。

後で聞いた話ですが、私かもし重度の障害をもつて生まれていたら、母は自分の病気の苦しみと障害の重さを背負って生きていく自信がなかっただと言っていました。だから、元気に育っていく私を見て、母自身も生きる希望と勇気をもらって、たそうです。私自身は両親や周りの人達の心配や苦勞を感じないで育って来ましたが、改めて今までの自分を反省し感謝したいと思えます。四度の流産を乗り越え、命の危険にさらされながら産んでくれた母や、見守ってくれた父、そして、私を支えてくれたたくさんの方々。そうしたたくさんの人達のおかげで、私は大きな病気もせず十二年間過ごすことができたのです。その気持ちに答えるためにも、これからも命を大切にしなければと思えました。

世の中には、人の命や自分の命をいとも簡単に無くしてしまう人がたくさんいます。そういう行動をとる人の気持ちや理解できません

5

10

15

ん。たとえ私のような未熟児でなくとも、一人の人間が生まれ、その命と健康を支えていくために、たくさんの方の手がかかっているのです。命とは何よりも一番大切にしていきたいかならぬものではないでしょうか。

5

10

15

20

15

10

5